

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和7年10月8日（水）13：00～14：00

場 所：日本薬剤師連盟会議室

出席者：岩月会長、原口副会長、上野専務理事

内容・提出資料：

1. エフィエント錠 PTP シートの GS1 コード誤表示について（注意喚起）

（令和7年9月30日 日情発第106号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

抗血小板剤「エフィエント錠 3.75 mg」の PTP シートに印字された GS1 コード（調剤包装単位コード）に誤りがあったとして、製造販売元の第一三共（株）より報告があった。

本来であれば、即時回収が必要であるが、治療上、当該製品からの代替ができないケースが想定されること、また、PTP シートに充填されている錠剤に誤りはなく、PTP シートへの表示についても GS1 コードのみが誤っており、商品名については正しく表示されていることが確認できていることから、当面は回収を行わず、安定供給に支障がない状況となり次第、不具合のある製品の出荷を停止、速やかに自主回収を実施予定との報告を同社から受けている。

当面は医療現場に不具合のある製品が存在する状況になるが、各薬局において該当製品の GS1 コードを利用した調剤、医薬品の充填等を行う際は十分注意すること、バーコードを活用した調剤鑑査支援システム等はあくまでも補助ツールであり、患者に提供される医薬品の取り扱いにあたっては薬剤師による最終的な確認が必須であること、新しいシステムに即した業務手順書への見直しを行い、各自医療安全対策を講じていただくことについて、都道府県薬剤師会を通じ会員に周知したところである。

2. モバイルファーマシー運用指針の完成について（ご報告）

（令和7年10月1日 日薬総発第13号）

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会では、モバイルファーマシー（以下、MP）の円滑かつ効果的な運用を図ることを目的に、MPの所有者（都道府県薬、大学等）と協議を重ね、「モバイルファーマシー運用指針」を取りまとめた。

本指針は、MPの平時における準備や、今後発生し得る大規模災害時の活動に資するものとして、その円滑かつ効果的な運用を実現するための基本的な指針となるものである。災害時における医薬品供給体制の確保・充実に向け、体制の整備・構築等に役立てていただくよう、都道府県薬剤師会に周知したところである。

3. 「薬と健康の週間」に関連した広報活動について（情報提供）

（令和7年10月2日 日薬総発第14号）

上野専務理事より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会では例年、10月17日からの「薬と健康の週間」に係る活動の一環として、薬剤師職能や薬局機能に関する国民向け広報のため、毎日新聞全国版に広告記事を掲載している。本年は初めての取組として、セルフケア・セルフメディケーションをテーマとする、

岩月会長と平井理央フリーアナウンサーの対談記事と、薬剤師の役割を訴求する広告、これら2つを紙面の上下で構成する一面広告を掲載する。その他、例年実施している連載広告記事を4回掲載する。また、これら新聞紙面での展開に併せ、WEB上のニュースサイト「毎日新聞」にも、連載広告記事を2回分掲載する。当該ニュースサイトでは、閲覧者を本会ホームページの関連コンテンツ（「かかりつけ薬剤師・薬局」特設ウェブサイト等）に誘導する対応も行う。

4. 電子お薬手帳システム等を統合した薬局 DX 基盤サービス「N-Bridge」の開発について（令和7年10月8日 日薬情発第111号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会は、全国の薬局・薬剤師のDX推進と、地域医療提供体制の強化を目的に、新たな薬局DX基盤サービス「N-Bridge（エヌ・ブリッジ）」、医療機関設置型処方箋情報送信端末「NB Station（エヌビーステーション）」の開発および提供に向け、（株）ファルモと連携を開始、中立的な立場で監修する。

高齢化の進展や人材不足を背景に、地域医療における薬局・薬剤師の役割はますます重要性を増しており、本会は、薬剤師が患者や社会から求められる専門性を十分に発揮できる環境を整備するため、会員支援の強化とデジタル基盤の整備を急務と位置付けてきた。

そこで、電子お薬手帳・処方箋受付・医薬品情報共有・医薬品発注等の機能を統合したシステム「N-Bridge」と、電子処方箋の普及を見据え、従来のFAX送信機の課題（管理の手間や電子処方箋未対応など）を解消する処方箋情報送信端末「NB Station」を提供する。これらにより、地域の薬局業務全般を支える持続可能なDX基盤を整備していく。

今月開催の第58回日本薬剤師会学術大会（京都大会）の展示ブースにおいて、概要の一部を紹介するため、参加の際は立ち寄られたい。

主な質疑応答は以下のとおり。

記者：自民党の新総裁となった高市早苗氏が「病院、介護施設は、いま大変な状況になっている。病院に関しては7割が深刻な赤字。介護施設の倒産も過去最高になった。診療報酬改定まで待ってられない」といった迅速な対応が急務である旨のご発言があったことについて、受け止めはいかがか。

岩月会長：是非そのお考えを実現いただきたいが、薬局も念頭にあってのご発言であったのかどうかは気にかかっている。病院の赤字がクローズアップされ、病院の対策をすることのみが社会保障対策であるとなれば、薬局の厳しい現状についても、引き続き訴えていかななくてはならない。

今回の定例記者会見は、令和7年10月22日（水）13：30～を予定。